

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

阿部晶子

内坂信也

石坂郁代

稲本陽子

勝木準子

菅野倫子

倉内紀子

倉智雅子

佐藤睦子

椎名英貴

中村光一

長谷川賢

原由紀

原田浩美

春原則子

平島ユイ子

深浦順一

福岡達之

藤原加奈江

水田秀子

矢守麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木準

今秋は季節の移ろいがあまり感じられない気温の高い日々が続きましたが、ようやく秋が深まり、冬の気配を感じる候となりました。

前号では論文における「著者の基準」について説明しましたが、今回は「二重投稿」を取り上げたいと思います。二重投稿は同一の内容とみなされる論文を複数の雑誌に同時に投稿することであり、研究上の不適切行為となります。日本語で発表した論文を英語等で発表すること（その逆も）や、1つの論文として発表できるものを複数の研究に分割して発表すること（サラム出版）も二重投稿となりますので、ご注意ください。二重投稿は論文や学術誌の原著性を損なうと同時に、これらが異なる研究と誤解されてエビデンスを歪める原因ともなりますので、本誌でも固く禁じています。なお学会発表の抄録等は二重投稿の対象とはならず、学位論文の内容を投稿することも問題ありません。

二重投稿を避けるには、下記の点に留意することが重要です。

- ・同一のデータを使用した論文を複数の学術誌に投稿しない。
- ・内容が一部重複する論文が先にある場合は、後に投稿する論文中で先の論文について言及し引用する。
- ・二重投稿とみなされる可能性がある論文は、先の論文が掲載されてから投稿する。
- ・内容が一部重複する論文が先にある場合は、投稿時に編集委員会にその旨を届け出る。

さて、今号には総説（講演）が1編、原著論文が6編、調査報告が1編掲載されています。

総説（講演）では、渡邊修先生が高次脳機能障害のリハビリテーションにおける医療と地域の連携について詳しく解説されています。原著論文のうち3編は嚥下障害に関する論文で（口腔がん患者の術前評価と術後嚥下障害の関連性、頭頸部癌患者の化学放射線療法前後の嚥下機能、嚥下関連筋のエコーによる評価）です。ほかの3編は、左頭頂・後頭葉損傷による semantic aphasia の症状、成人補聴器臨床における言語聴覚士の役割、ADHD 児の言語発達を阻害する予測因子に関する論文です。調査報告は介護保険ケアプランへの言語聴覚士組み入れに関する調査結果が報告されています。いずれも、興味深い知見が報告されていますので、ご一読ください。（藤田郁代）

言語聴覚研究（第21巻第4号）2024年12月15日発行[年4回（3、6、9、12月）15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価：2,200円（本体2,000円＋税10%）

2024年年間購読料：8,250円（4冊、税込、送料販売会社負担）

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会（会長：内山量史）

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京9階

（☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629） <https://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis

Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2024, Printed in Japan

制作・販売：（株）医学書院（代表：金原 俊） <https://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

販売・PR部 ☎ 03-3817-5650 FAX 03-3815-7804

印刷所 （株）真興社

広告取扱 （株）文京メディカル ☎ 03-3817-8036 FAX 03-3817-8044